

郷土を知る
むかしむかし
昔々の

開 市のおそ

第54回



江戸時代の特産品

生涯学習課 文化財係 ☎ 0986-76-8873

曾

於市の特産品は何ですか？と尋ねられたら、皆さんは何を思い浮かべるでしょうか。「肉」や「ゆず」、「やごろうスイカ」など、魅力的な特産品の数々が頭に浮かぶことと思います。

では江戸時代の市内一帯の特産品は何かあったのでしょうか。天保年間に薩摩藩が編纂した地誌『三国名勝図会』には、地域の物産について書かれた項目があり、市内では財部・末吉・恒吉各郷の物産について記載されています。物産の種類は鉱物や薬種、野鳥や野生動物など多岐にわたりますが、今回は特に末吉郷の「飲食物」に注目してご紹介したいと思います。なお当時は大隅町岩川も末吉郷に含まれています。

まず飲食物として「茶」の品名があり、「上品なり」と特記されています。茶の生産は現在も市内で盛んに行われていますが、当時から当地産の茶は上質とされていました。

次に五穀類「米」・「胡麻」が挙げられています。米は「中裏・大裏二村の産は、上品とす」とあり、中裏村・大裏村（現在の南之郷地

区一帯）では良い米が穫れていたことが分かります。「胡麻」は、現在でこそ国内生産がごく僅かと言われていますが「府下にある胡麻は大抵庄内の所産なりとぞ」とあり、薩摩藩下において胡麻の大産地であったようです。ここでいう庄内は都城から末吉に至る地域のことで、平地に陸田が広がり、穀物類が多く穫れたと記されています。

また野菜類として「養原菜菔」という名で都城から財部・末吉に跨がる地域で穫れる大根が漬物に良いとして記されています。『三国名勝図会』に記された本市一帯の物産は薬種や樹木類が多く記されており、当時から山野の恵が豊かな地域であったことがうかがえます。中には現在見られなくなったものもあり、たいへん興味深い内容となっています。今と昔、曾於市一帯の特産品を比べてみるのも面白いでしょう。今後、新たな特産品を作り出すヒントとなるかもしれません。

物産

- 土石類 粗砥石 △浮石 宮路村に出づ甚大なる者ありて、手爐等の諸器を製す、
- 金鐵類 生鉄
- 器用類 紙 △茅蓑
- 飲食物 茶 上品なり △酒
- 五穀類 米 中裏大裏二村の産は上品とす、△大豆 △赤小豆 △胡麻 當邑の地平原曠野にして、陸田甚廣し故に陸産の諸穀多く出づ、世に庄内大豆と稱す、是多く出るに由て其稱あり、府下にある胡麻は大抵庄内の所産なりとぞ、庄内とは都城及び當邑かけての事なり、
- 薬種類 柴胡 △茯苓 △鬚人參 △金銀花 △紫根 △括婁實 △辛夷 △縮紗仁 △桂木
- 蔬菜類 香蕈 △丁蕈 △養原菜菔 醃菜にして好し、養原の地は當邑及び財部都城の地に係る、
- 果實類 柿 △銀杏 △栗 △椎實 △茶實 △榲實
- 花卉類 福壽艸 △櫻子
- 樹木類 榲 △鈎栗 △桐 △樟 △蚊母樹 △榲
- 飛禽類 鶉 上品なり △鵜鶎 △山鳥 △鷹 △雉
- 走獸類 馬 △牛 △野猪 △鹿 △獺 △猿
- 鱗介類 鱒 △鮎 △龜 △鼈

『三国名勝図会』 青潮社より抜粋・編集



※『三国名勝図会』からの引用は楷書体で区別しています
 ※ 天保年間…1831～1845年まで。三国名勝図会は1843年編纂